

## [090\_03] 法政研究表紙奥付

<https://hdl.handle.net/2324/7162062>

---

出版情報：法政研究. 90 (3), 2023-12-25. 九州大学法政学会  
バージョン：  
権利関係：



## 九州大学教授 明石欽司 先生

明石欽司教授は、1958年10月に静岡県で生まれ、1983年に慶應義塾大学法学部を卒業後、同大学院法学研究科修士課程に進学、その後1986年に同博士課程を中退し、同年に海上保安大学校助手に採用され、同専任講師、在ベルギー王国日本大使館専門調査員（1993年～1995年）、ブリュッセル自由大学国際法研究所研究員（1995年～1996年）、新潟国際情報大学情報文化学部助教授（1996年～2000年）、慶應義塾大学法学部助教授・教授（2000年～2016年）を経て、2016年4月に教授として九州大学に着任された。この間、1996年にはオランダのユトレヒト大学から法学博士号を授与されている。

明石先生の研究領域は、16世紀以降の国際法史を中心とする国際法の基礎理論である。先生の代表的な研究としては、単著として公刊された *Cornelius van Bynkershoek: His Role in the History of International Law* (1998年)、『ウェストファリア条約——その実像と神話——』(2009年)、『不可視の国際法——ホップズ・ライブニッツ・ルソーの可能性——』(2019年)のほか、*The Oxford Handbook of the History of International Law* (2012年) 所収の“Japan-Europe”等、日本における国際法受容を対象とした一連の研究がある。先生の研究は、「主権」・「国家」・「実証主義」等に代表されるような国際法学の中心的観念を対象とするものであり、一次史料の緻密な分析と国制史・政治思想史等の隣接する学問分野の研究動向の精確な把握を通して、国際法の歴史的展開を解明してきた。その研究業績は学界から高く評価され、*Cornelius van Bynkershoek*で1999年に第32回安達峰一郎記念賞を受賞している。また、先生は英語での研究発信にも一貫して取り組まれており、その業績が国際的にも高く評価されていることは、2018年から現在まで *Journal of the History of International Law* の Academic Advisory Board を務めていることから確認される。

九州大学では、法学部と法学府での講義・ゼミに加え、国際コースの講義、論文指導・審査を担当した。管理・運営面では、大学院企画運用委員等として法学府に貢献した。その他、学外においても国際法学会理事（2020年～2022年）、世界法学会理事（2016年～2023年）等を務めている。

明石先生が退職を迎えられるにあたり、そのご功勞に対する感謝の念を込めて本号を献じるとともに、先生の今後のご健勝とご活躍を心より祈念申し上げる次第である。